

令和4年度 社会福祉法人八康会 事業報告

総 括

平成10年8月に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス、在宅介護支援センターを開設した当法人は、その後ヘルパーステーションや居宅介護支援事業所などを開設し、久御山町内の中核的な施設として地域との関わりを深めながら事業運営を行ってきた。

令和元年度から取り組みをはじめた外国人技能実習制度の活用については、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で渡航が遅れていたが、令和4年7月1日から実習が開始された。順調に日本語や介護技術の習得ができており、2期生の早期導入を視野にできる状況である。

新型コロナウイルス感染症対策では、令和4年7月30日に施設職員の陽性者が確認され、特養施設内でクラスターが発生。感染拡大防止対策を徹底し、翌月（8月28日）の終息宣言に至る。以降9月と12月にケアハウス入居者、令和5年1月にデイサービス職員の陽性が確認されるが、感染拡大することなく経過。現在も利用者や職員の命を守る取り組みを最優先課題として取り組みを継続している。

以下、令和4年度事業計画における【重点項目】についての結果である。

（人材確保）

全国的にも介護職員の人材不足が大きな課題となっており喫緊の課題である。インターネットによる求人や人材紹介、派遣職員からの直接雇用などを積極的に活用し、人材確保に努めた一方で、職員の離職防止を含めた対応にも重点的に取り組んだ。「京都府福祉職場組織活性化プログラム」職員アンケートの活用や面談などで意見を聞き取り、ワークライフバランスに配慮した働きがいのある、魅力ある職場づくりに取り組んだ。また、当法人は、安心して働ける職場であることを示す「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証事業所であり、今後も職場の魅力向上と人材の育成及び定着に努めたい。

（利用者サービスの質の向上）

各事業所においては、コロナ禍における利用者の命、尊厳を守る行動、一人ひとりが楽しいと感じる暮らしと、健康で生きがいをもって日々の生活ができるように、サービスの質の向上を図ることを第一に事業展開を行った。又、法人全体の身体的拘束適正化委員会・虐待防止委員会を毎月定期的で開催し、職員への全体研修などを通じて、高齢者虐待の未然防止に努め、組織をあげて積極的に取り組んだ。

(危機管理システムの構築)

各種リスクマネジメント対策の強化や事業を継続的に実施するための取り組みを強化することが求められ、久御山町消防署の指導の下、消防総合訓練を実施し、普段からの自衛消防の初期対応の強化や安全な避難誘導訓練を行った。令和3年12月の小火発生以降から取り組みを強化した消防機器の点検や避難経路の安全確認など緊急時の対策強化を継続し、取り組みを行った。災害などの緊急事態に遭遇した場合に、被害を最小限にとどめて事業継続、早期復旧を行うことができるよう備えることが必要であり、災害時のBCP（事業継続計画）など事前準備対策や総合的な計画を策定することも引き続きの課題である。

(経営の安定化、ガバナンスの確立)

経営面では、各事業において年度当初から稼働率低下が顕著にみられていたため、入院者数の増加など減収の要因を調査・把握し、その対策を最優先で取り組んだ。特別養護老人ホームにおける入院者数減少による稼働率の向上など一定の成果がみられた。しかし、併設のショートステイを含めた稼働率は、目標に達しておらず課題は残っている。通所介護については、周辺の事業所の利用者状況を調査し、介護予防の支援が不足している点に着目し、サービス提供時間の選択性導入や対象地域の拡充を図り、短時間サービスにおいて、一定の効果はみられたものの、全体的な稼働率向上を目指した目標に達しておらず、今後もショートステイ・通所介護の稼働率向上を重点課題として取組を強化する。又、電気代や物価の高騰などもあることから、あらゆる分野において経費の削減を徹底し、収益増に向けた取り組みの強化が必須である。

(地域との連携、地域貢献事業の展開)

定例の久御山南病院との合同夏まつりをはじめとする地域との交流機会は、コロナウイルス感染症の影響により中止となった。その一方で、町内住民主催の行事に積極的に参加し、地域の活性化やつながりの構築に向けて、多様な関係機関、個人との連携・協働を進めることができた。中でも移動スーパーや和菓子店の移動販売など地域住民と施設入居者との交流機会となる取り組みを継続的に実施することができた。今後も地域住民との交流を深め、地域とともに暮らすという意識を高め、さまざまな課題を解決していくことが求められている。社会福祉事業だけではなく、制度外のニーズにも対応することなども期待されていることを認識し、久御山町社会福祉協議会や他サービス事業者などと連携しながら、さらに取り組みを進めていきたい。

今後も、社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取組」を進め、地域に信頼される施設づくりを目指すことが重要である。

1 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員 60 名

利用者一人一人に寄り添った介護の充実を図ることに重点を置き、個別処遇計画に基づく個別ケアを中心にサービス提供を行ってきた。職員の負担軽減を考慮しながら、毎月のリーダー会議やフロア会議の中で業務の見直しや改善を行い、利用者と共に過ごす時間の確保や個別ケアの充実に努めた。サービスの質の低下を招くことなく一定の効果はみられたが、介護職員の業務負担軽減など離職防止への取り組みは継続中である。

職員の資質向上については、各委員会（事故防止、感染症対策、身体拘束廃止、虐待防止、サービス向上、褥瘡予防対策）の主催や法人研修企画委員会による苑内研修を定期的に行い、職員の自己研鑽への意識や資質向上に繋げることができた。今後も、継続しながら個々のサービス内容の見直しも進め、よりよいサービスの提供を行う。

(1) 利用状況

施設の利用状況は、表 1 のとおりである。令和 4 年度の年間延べ利用者数は、20,488 名（前年比+433 名）外泊算定者を合わせた 1 日平均で 56.1 名（同+1.2）、ベッド稼働率は 93.5%（+1.9%）。平均要介護度は 4.0 であった（前年同様）。

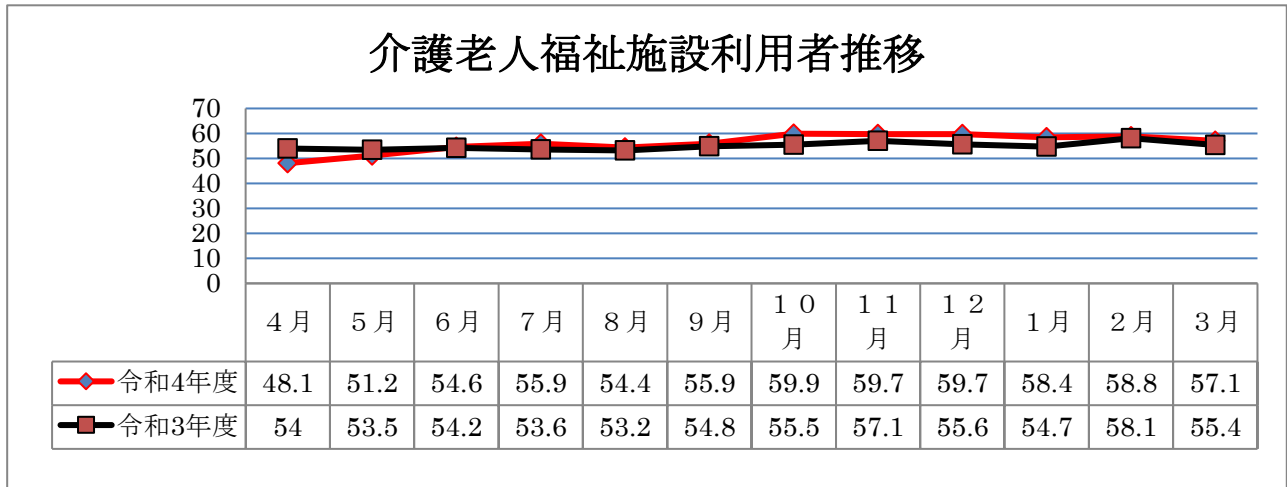
入退所状況については、4 月は前月 3 月に発生した感染性胃腸炎の集団発生の影響、7 月から 8 月はコロナウイルスの集団発生があり、新規入所がスムーズに進められなかったが、5 月から 6 月で 8 名、9 月から 10 月で 4 名の入所対応ができた。入院日数については、干渉波嚙下リハビリの効果もあり、誤嚥性肺炎を起こされる方も減り、年間で 810 日（前年比-511 日）と昨年度と比べ、大きく減少した。

令和 5 年度も引き続き、日常の健康管理や入退院時の医療との連携、誤嚥性肺炎のリスクを軽減し、入院日数のさらなる減少を図り、稼働率向上に繋げていきたい。

表 1 介護老人福祉施設の利用状況

特養		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和 4 年度	延利用者数	1444	1587	1639	1733	1685	1676	1857	1790	1850	1811	1645	1771	20,488
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(名)	48.1	51.2	54.6	55.9	54.4	55.9	59.9	59.7	59.7	58.4	58.8	57.1	56.1
	入院日数	240	186	107	79	82	41	3	10	10	30	0	22	810
	稼働率%	80%	85%	91%	93%	91%	93%	100%	99%	99%	97%	98%	95%	93%
前年度1日平均(名)	54.0	53.5	54.2	53.6	53.2	54.8	55.5	57.1	55.6	54.7	58.1	55.4	55.0	
入所者数	2	4	3	1	0	3	1	0	0	0	1	1	0	16
退所者数	4	3	2	3	1	0	0	0	0	0	2	1	3	19

図1 介護老人福祉施設の利用者数の推移



(2) 利用者の生活の状況

令和4年度の事業計画の重点項目「一人一人に寄り添った介護の充実を図る」に基づき、個別ケアの充実に取り組んだ。担当者会議などで個別処遇計画の見直しを行い、よりよい生活を送るために何が必要で何を優先すべきかということに重点を置いて、見直しを行った。

施設内の生活としては、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、近隣への散策や買い物など外出行事や10月には秋祭り、12月にはクリスマス会の開催など季節感を感じていただける行事が実施できた。利用者も非常に喜ばれていた様子であった。

表2 年間行事

4月	おやつ作り（ベビーカーラ）
5月	外出（近隣散策、買い物）、おやつ作り（プリンアラモード）
6月	外出（近隣散策、買い物）、おやつ作り（ところてん）
7月	おやつ作り（たこ焼き）
8月	夏祭り（クラスター発生により延期）
9月	敬老祝賀式、おやつ作り（フルーツサンド）
10月	秋祭り（夏祭りの代替）
11月	おやつ作り（さつま芋きんつば）
12月	クリスマス会、変わり湯
1月	書初め、おやつ作り（さつま芋きんつば）
2月	節分お楽しみ会
3月	おやつ作り（フルーツサンド）

表3 利用者の状況（R5.3.31現在）

<性別、年齢及び入所期間>

区分	～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 15年未満	15年以上～
70～74歳 男						
70～74歳 女		1				
75～79歳 男			1			
75～79歳 女	2	2				
80～84歳 男	1	2	1			
80～84歳 女	2	3		2		
85～89歳 男	1			1		
85～89歳 女	1	4		7		
90～94歳 男		1				
90～94歳 女	4	2	1	2	1	1
95～99歳 男						
95～99歳 女	2	5		4		
100～104歳 男	1					
100～104歳 女		1				
計	14	21	3	16	1	1
	平均年齢	要介護度状況				
男	83.9歳	要介護1	0	要介護4	23	
女	88.5歳	要介護2	0	要介護5	17	
	87.9歳	要介護3	16	平均	4	

(3) 健康管理について

定期的な健康管理として、毎年4月に一般健康診断を行っている。何か異常があれば追加検査を行い、嘱託医より家族に説明し、今後の治療方針を相談・決定している。

NST会議（栄養サポートチーム会議）を継続し、特養利用者60名の既往歴に基づいた追跡検査などを行い、健康管理を行うことで再発など予防していくことを目的としている。

入院者数について、延べ25名実人数22名（入院病名として骨折・酸素濃度低下、尿路感染など）年間月平均3.8名入院しているが9月以降は2.1名である。退所者については、19名（入院中死亡者3名、施設内看取り対象者8名、長期間入院加療対象者7名、体調急変1名）であった。入院日数は前年と比べ減少し、特に9月以降は大きく減少している。

感染対策としては、地域での感染症情報の収集、施設内の状況把握、感染症の知識を職員で共有するなど、感染症対策委員会を中心に行ってきた。新型コロナウイルス感染症については、8月に利用者、職員の集団発生があった。初動対応の不十分さが集団発生につながった大きな要因である。初動対応や感染拡大防止対策の重要性について、感染症対策委員会の中で繰り返し話し合いの機会を持ち、今後の対応などについて徹底を図った。以降、職員の発症はあったが、感染が拡大することはなかった。感染防止対策の一定の効果であると考え、今後も継続的な感染防止対策会議の実施や協力医療機関、行政等関係機関との連携を密に図り、感染予防の徹底に努め

ていきたい。

看取り介護について、毎月の看取り介護委員会の開催、指針の見直し点検や職員にむけての研修（苑外・苑内）を行った。令和4年度は、8名の看取り介護を行ったが、令和5年度もさらなる体制の構築に取り組んでいきたい。

（4）栄養管理について

食事の提供では、給与栄養目標量と実績（カッコ内）は、熱量1,534kcal/日(1,585kcal/日)たんぱく質51g/日(68.5g/日)であった。利用者個々の身体状況、嗜好に配慮した食事提供ができた。また、嚥下・咀嚼機能の変化、疾病状況の変化に添い、迅速に対応できるよう給食委託業者と調整を行った。

厨房内の衛生管理については、委託業者内研修や情報提供などで、感染予防に努め対応できた。これからも衛生面や環境整備に取り組み、感染予防に努めていきたい。

栄養ケアマネジメントでは、個々の栄養管理について、多職種で構成される担当者会議において連携を深め、食種の経緯・体重変化・血液データ・栄養状態のレベル、栄養ケアの経過記録などを基に今後の改善目標を設定し、一人一人の利用者の状況変化に対し、健康維持・疾病予防・栄養改善のための具体的な提供方法を検討し、実施してきた。また、摂食・嚥下障害対象者には、多職種による協働で口から食べる支援を、経口維持計画を立て実施することで、さらに栄養管理を強化していくことができた。

表4 食事提供内容

＜食事形態内容＞ R5. 3. 31現在 (名)													
主食							副食					胃ろう	
米飯	軟飯	全粥	おにぎり	パン	パン粥ベースト	パン粥ゼリー	(普通)	(一口大)	(軟菜食)	(ソフト食)	(ペースト食)		(ゼリー食)
6	10	22	0	4	9	0	7	9	23	4	8	0	2

(入院利用者3名除く)

特別治療食					
心臓食 (塩分制限食)	脂質異常食	糖尿病食	脾臓・肝臓食	貧血食	腎臓食
15	0	6	0	0	1

<お誕生日食・行事食>

行事名	実施日	内容
4月お誕生日食	4月22日	寿司盛り合わせ
節句の日	5月5日	ちらし寿司、鯛の潮汁、柏餅
5月お誕生日食	5月23日	松花堂弁当(豆ごはんのおにぎり、むつの幽庵焼き等)
6月お誕生日	6月22日	洋食ランチ(サーモンのソテーもしくは煮込みハンバーグ)
7月行事食	7月7日	七夕そうめん
7月お誕生日食・土用の丑	7月23日	鰻重弁当
8月お誕生日会	8月30日	松花堂弁当(山椒ちりめんごはん、鰻の湯引き)
9月お誕生日会・敬老祝賀式	9月14日	お祝い膳(赤飯、鯛の塩焼き、天ぷら)
10月お誕生日会	10月27日	松花堂弁当(きのこごはん、豚ロースと舞茸の朴葉焼き)
11月お誕生日会	11月29日	寿司握り盛り合わせ
クリスマスパーティー	12月24日	クリスマスランチ
お正月	1月1,2,3日	お節料理(お雑煮、海老さより手綱等)
1月お誕生日会	1月25日	海鮮丼
節分の日	2月3日	巻き寿司、いなり寿司等
2月お誕生日会	2月20日	松花堂弁当(蟹と生姜の炊き込みご飯、刺身等)
お雛様の日	3月3日	五目散らし寿司、炊き物(鯛の子、ふき)
3月お誕生日会	3月21日	すき焼き盛り合わせ

その他：選択食・おやつ作りなど月2回実施した。

2 ショートステイ（短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護）

定員10名

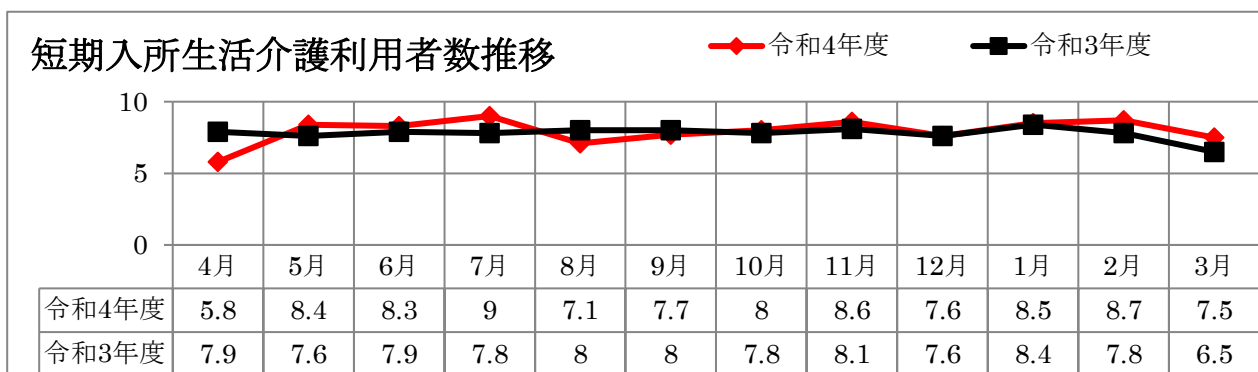
利用者数は、表5のとおりである。年間のベッド稼働率は79.3%(前年比+1.4%) 延べ利用者数は2,896名(同+54名)であった。

稼働率については、前年度3月の感染性胃腸炎の集団発生、8月の新型コロナウイルス集団発生の影響で、受け入れを中止したこともあり、4月、8月、9月は前年比マイナスとなったが、それ以外の月では前年度比較はプラスとなっている。今後もケアマネジャーに対しての働きかけや近隣市町村の居宅介護支援事業所および医療機関などへの利用者獲得の働きかけを続けながら、利用者数増加に繋げていきたい。

表5 短期入所生活介護利用者の状況

ショート		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和4年度	利用者数実績	173	260	250	279	221	231	248	257	237	265	244	231	2,896
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(名)	5.8	8.4	8.3	9.0	7.1	7.7	8.0	8.6	7.6	8.5	8.7	7.5	7.9
	稼働率%	58%	84%	83%	90%	71%	77%	80%	86%	76%	85%	87%	75%	79%
前年度1日平均(名)		7.9	7.6	7.9	7.8	8.0	8.0	7.8	8.1	7.6	8.4	7.8	6.5	7.8

図2 短期入所生活介護利用者数の推移



3 デイサービスセンター（通所介護、第1号通所型サービス） 定員25名 定員5名

(1) 利用状況

【7～8時間】年間延べ利用者数4,601名（前年比－507名）、1日当たりの平均利用者数は、15名（前年比－1.6名）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で351名（前年比－375名）で総利用者数の7.6%であった。

【3～4時間】年間延べ利用者数737名（前年比＋574名）、1日当たりの平均利用者数は、3.0名（前年比＋2.5名）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で199名（前年比＋192名）で総利用者数の27%であった。

表6 通所介護事業所の利用状況

【7～8時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和4年度	延利用者数	371	352	374	347	301	400	426	400	383	399	405	443	4601名
	稼働日数	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	308日
	1日平均	14.3	13.5	14.4	13.3	11.1	15.4	16.4	15.4	16.0	16.6	16.9	16.4	15.0名
	稼働率(%)	57.1	54.2	57.5	53.4	49.6	61.5	65.5	61.5	63.8	66.5	67.5	65.6	59.8%
令和3年度 1日平均		17.8	17.7	17.5	16.4	16.4	17.3	17.8	17.5	16.0	14.8	15.5	14.3	16.6名

【3～4時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和4年度	延利用者数	45	51	56	50	58	71	75	74	67	56	56	78	737名
	稼働日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	20	22	244日
	1日平均	2.3	2.7	2.5	2.5	2.6	3.6	3.8	3.7	3.4	2.9	2.8	3.5	3.0名
	稼働率(%)	45.0	53.7	50.9	50.0	52.7	71.0	75.0	74.0	67.0	58.9	56.0	70.9	60.4%
令和3年度 1日平均		0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.7	1.0	1.3	0.5名

図3 通所介護利用者の推移

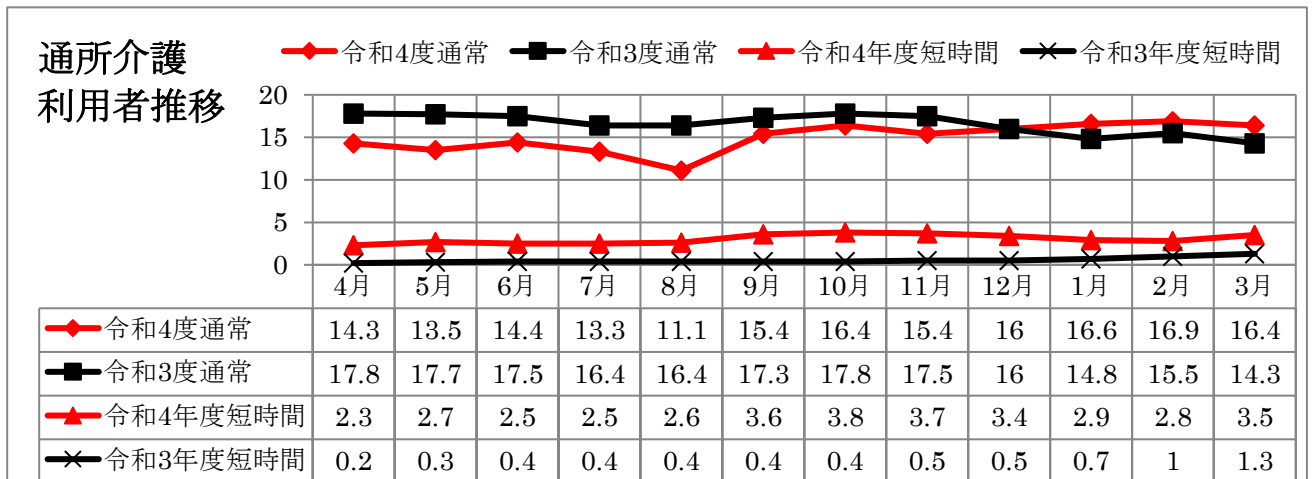


表7 利用者の状況

【年齢階層】 (R5.3.31現在)

	55～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100歳～	平均 年齢
男性	1名	2名	4名	5名	9名	1名	2名	0名	84.7歳
女性	1名	1名	7名	8名	12名	18名	2名	0名	86.7歳
計	2名	3名	11名	13名	21名	19名	4名	0名	86.1歳

【介護度】

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	介護度 平均
男性	1名	0名	3名	2名	6名	9名	0名	3名	2.2
女性	0名	3名	5名	9名	12名	8名	7名	5名	2.2
計	1名	3名	8名	11名	18名	17名	7名	8名	2.2

【利用期間】

	1年 未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 10年未満	10年 以上
男性	14名	5名	2名	2名	0名	2名
女性	22名	11名	4名	3名	5名	3名
計	36名	16名	6名	5名	5名	5名

表8 【行事報告】

4月	おやつ作り: 桜もち
5月	作品作り: プラ板作り
6月	映画鑑賞
7月	お茶会
8月	夏祭り
9月	園芸
10月	運動会
11月	紅葉見学
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	映画鑑賞
3月	外出行事: 桜見

(2) 重点項目

1) 稼働率の向上及び増収について

サービス利用時間の選択制や実施地域の拡充により、短時間の3～4時間枠で新規利用者は獲得できたが、重度化による医療機関への入院などその空きを埋めることが出来なかった。

2) 利用者、家族の立場に立ったケアの提供について

コロナウイルス感染症の影響で、イオン買い物などの外出行事やみまきこども園交流会などの行事が行えず、代替行事としておやつ作りや映画鑑賞を実施した。毎月のサービス向上委員会で、職員の言葉使いなど接遇面の質向上や虐待防止への取り組みを行った。

3) 機能訓練の充実について

在宅での状態を確認しながら、協力医療機関の理学療法士との協議の中で訓練内容の検討や実施状況など評価を行うことができた。また、エアロバイクなど運動機器の導入やポールウォーキングを取り入れるなど訓練メニューの充実を図ることができた。

4) 地域とのつながりについて

コロナウイルス感染症の影響で、ボランティアや介護サポーターの来苑も中止となった。不定期開催ではあったが、音楽療法士の訪問による認知機能低下防止や利用者及び職員との交流の場を持つことができた。

5) 安心、安全なサービス提供について

毎月の事故防止対策委員会において、ヒヤリハット事例などの検証を行い、また、日々の手洗いやうがい、消毒など感染拡大を防ぐ感染症防止対策を徹底することができた。

6) 職員の育成について

定例会議や各種委員会（事故防止、サービス向上、感染症対策、虐待防止、身体拘束廃止）の中で、研修や勉強会を実施し、職員の資質やサービス向上の取り組みを行うことができた。

7) 共生型サービスの導入について

コロナウイルスの影響もあり導入までに至らなかったが、町社協主催の障がい福祉理解促進研修への参加など行政や町内障がい支援事業所及び相談支援員などと連携を図ることができた。今後も共生型サービス導入に向けた取り組みを推進します。

4 ケアハウス

定員15名

令和4年度は、入居利用者の心身の加齢に伴う虚弱化で入退院を繰り返すことや新型コロナウイルス感染症対策の影響で外出機会の減少や9月と12月に入居者の陽性確認後、クラスター発生防止対策として、入居者同士の交流機会が減少したことで日常生活への影響が大きかった。介護保険要介護度区分も要介護3が4名となり、介護保険外を含めた各種サービスとの連携を深めながら、可能な限り自立した生活が送れるサポート体制の充実が必要である。

(1) 入退居者の状況

令和4年度は、退居者が6名（逝去1名、他5名）で入居者は5名であった。主な退居理由は、重度化に伴いケアハウスでの生活が難しく、特養施設への入居や治療中の病気が悪化し急逝されたケースである。

(各月初定員：15名利用 年間180名利用)

表9 入居年数と年齢

年度末在籍者調べ以下同

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度
入居者数	7	7	2	1	2	3			3	3	14	14
年度別全体比	50%	50%	14%	7%	15%	21%	0%	0%	21%	21%	100%	100%
60歳～84歳	2	3							1		3	3
85歳～89歳	3	1	1	1	1	1				1	5	4
90歳～94歳	1	2			1	1			1	2	3	5
95歳～	1	1	1						1	1	3	2

表10 入居年数と介護度

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度
自立		1									0	1
要支援1			1								1	0
要支援2									2		2	0
要介護1	3	2		1						1	3	4
要介護2	1	2	1		1	2			1	2	4	6
要介護3	3	2			1					1	4	3
合計	7	7	2	1	2		0	0	3	4	14	14
要介護2以上の割合	50%	50%	14%	7%	15%	15%	0%	0%	21%	29%		

表 1 1 利用者の所得階層別一覧

<サービス提供に要する費用>

対象収入(年収)のよる所得階層区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3年度	4年度	個人徴収額
150万円以下	1													3%		7,000円
		8	8	8	8	6	8	8	8	8	8	8	8	46%	57%	10,000円
150～160万円	2													2%		13,000円
160万1円～170万円	3													7%		16,000円
170万1円～180万円	4	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14%	9%	19,000円
180万1円～190万円	5				2	2	2	2	2	2	2	2	2		11%	22,000円
190万1円～200万円	6	1	1	1										7%	2%	25,000円
210万円～220万円	8													2%		35,000円
220万円～230万円	9				1	1	1	1	1	1	1	1	1		5%	40,000円
230万1円～240万円	10	1	1	1										5%	2%	45,000円
240万1円～250万円	11				1	1	1	1	1	1	1	1	1	2%	5%	50,000円
250万1円～280万円	12	1	1	1										5%	2%	57,000円
300万1円～310万円	17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6%	7%	89,300円

(注) 1) 生活保護受給者：1名

2) 月負担額は、上記のサービス提供費用+生活費+居住費+水光熱費を含み11万円までが大半である。参考:(10,000～85000)+44,810+28,000+水光熱費(平均5,000)

表 1 2 介護保険サービス利用状況

実利用者数			利用回数											合計(名)			
サービス内容	R3	R4	週	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回		
訪問介護	13	12	R3	3	2	1										7	13
訪問看護	1	2	R4	4												8	12
通所介護	8	9	R3	1													1
福祉用具貸与	12	12	R4	2													2
訪問リハビリ	2	4	R3	1	2	5											8
居宅療養管理指導	3	1	R4		1	6	2										9
在籍者数	14	14	訪問	1	1												2
			リハビリ	2	2												4

(2) 健康管理について

- (ア) 年1回の特定健診を受診し結果を主治医へ報告。必要に応じ肺炎球菌の予防接種を実施。
- (イ) インフルエンザの予防接種を行い、感染症防止のため手洗いの励行や消毒に努めた。
- (ウ) 食事摂取量の変化は、健康のバロメーターと考え、極端に摂取量が少ない日が継続しないか観察を行った。

(3) 行事について

新型コロナウイルスの関係で外出の自粛や行事などの中止もあり、計画通りの実施が出来なかった。入居者が、生きがいを持ち楽しく日常生活を過ごしていただけるように、町内和菓子店や移動スーパーに協力いただき、定期的な買い物ができる環境を準備し実施した。

表13 年間行事一覧表 ※9月から移動スーパーによる訪問販売を毎週実施

月	内 容	月	内 容
4月	桜お花見	10月	和菓子訪問販売
5月	懇談会・法人全体消防避難訓練	11月	和菓子訪問販売
6月	和菓子訪問販売	12月	和菓子訪問販売・インフルエンザ予防接種・クリスマス会
7月	和菓子訪問販売・懇談会・法人全体水害避難訓練	1月	和菓子訪問販売・懇談会
8月	和菓子訪問販売	2月	和菓子訪問販売
9月	和菓子訪問販売・懇談会	3月	和菓子訪問販売・懇談会・ケアハウス単独避難訓練

5 ヘルパーステーション（訪問介護、訪問型サービス）

（1）利用状況

新型コロナウイルス感染症の影響は、訪問先や同居家族の陽性による濃厚接触者や訪問介護員の陽性など8月～12月に6名あったが、訪問調整を行うことができ利用者に対する影響は少なく支援を継続することができた。

令和4年度は、利用終了者数（38件）が多く、訪問回数も減少（前年比-1090回）した。特に月平均80回と頻繁に訪問していた利用者の施設入所が大きく影響している。新規利用者については、月平均4件であり一定の新規利用者獲得に繋がった。利用者のADL低下に伴う訪問回数の増回や、突発的な通院介助などの依頼も多くあったが、希望に応じて迅速に対応することができたことは、利用者や他事業所からの信頼を高める事業所運営が行え、ケアマネジャーとの連携も深まり、利用者に安心して自宅での生活を継続していただける支援に繋げることができた。

表14 ヘルパー派遣利用者数

（単位：名）

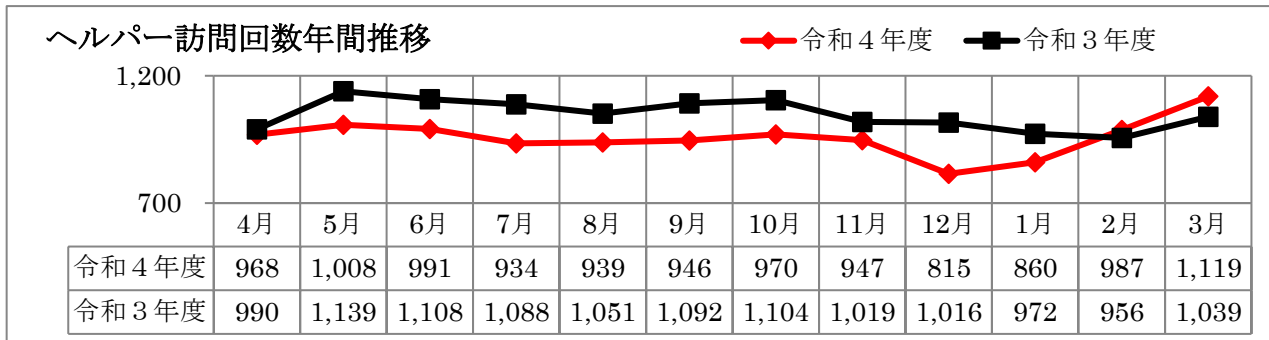
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数(介護)	68	65	71	65	66	67	69	75	72	73	74	76	841
利用者数(予防)	33	26	30	30	26	30	25	27	26	31	26	26	336
合 計	101	91	101	95	92	97	94	102	98	104	100	102	1,177

表15 ヘルパー訪問回数と前年度比較

（単位：回）

訪問回数	内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	身体介護	451	493	467	476	461	418	482	440	358	358	509	616	5,529
	身体生活	134	116	135	118	130	126	152	145	115	129	136	154	1,590
	生活援助	383	399	389	340	348	402	336	362	342	373	342	349	4,365
令和4年度		968	1,008	991	934	939	946	970	947	815	860	987	1,119	11,484
令和3年度		990	1,139	1,108	1,088	1,051	1,092	1,104	1,019	1,016	972	956	1,039	12,574
増 減		-22	-131	-117	-154	-112	-146	-134	-72	-201	-112	31	80	-1,090

図4 ヘルパー累計訪問回数



(2) 重点項目

個別サービスの向上については、コロナ禍による在宅での看取り希望者が増え、すべての依頼に応じて対応することができた。

職員体制の充実については、訪問介護員の高齢化や年間所得制限や退職者などの影響で、訪問介護員の稼働可能な時間が減少し、サービス提供責任者の訪問回数が大幅に増回した。

訪問介護員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で、集合型ではなく個別対応で行っていたが、12月より感染対策を徹底し、一部集合型で行ったことで、訪問介護員同志のコミュニケーションが活性化された。今後も知識や実技の向上に繋がるよう、研修の内容や取り組み方法を充実させ、全体のスキルアップを図っていきたい。

表16 研修内容

日 時		事業所内研修
4月	随時	緊急時対応(コロナ禍のため少人数での個別研修)
5月	随時	認知症について(コロナ禍のため少人数での個別研修)
6月	随時	食中毒について(コロナ禍のため少人数での個別研修)
7月	随時	脱水・熱中症について(コロナ禍のため少人数での個別研修)
8月	随時	接遇について(コロナ禍のため少人数での個別研修)
9月	随時	移動・移乗、ボディメカニクスについて(学研介護サポート活用)
10月	随時	移動・移乗、車いす基礎知識について(学研介護サポート活用)
11月	随時	感染症について(コロナ禍のため少人数での個別研修)
12月	随時	意見交換会
1月	随時	法令遵守について
2月	随時	KYT(危険予知トレーニング)について
3月	随時	ヒヤリハットについて

6 居宅介護支援事業所

(1) 利用状況

給付管理件数は、昨年度介護支援専門員の増員があり月176件（予防給付含む）を目標にしていたが、長期の入院や近隣市町村の介護老人保健施設や特別養護老人ホームへの入所者数が増加するなど、月平均135件（予防給付含む）となり目標に達することはできなかった。給付管理票の提出件数は、1447件(前年比+243件)と増加。予防給付件数についても、前年度と比べ月平均30件（前年比+3件）と増加した。

表17 給付管理票提出（ケアプラン作成）状況

<ケアプラン作成実績>

(単位:件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	108	121	122	125	123	120	119	123	127	119	119	121	1,447
令和3年度	97	94	93	96	101	99	101	102	103	102	106	110	1,204

<要介護度別ケアプラン作成実績>

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	令和4年度	23	25	28	33	36	35	35	36	35	34	35	38	393
	令和3年度	21	20	20	19	20	20	21	22	22	21	24	23	253
要介護2	令和4年度	41	46	46	43	41	42	45	42	47	43	40	42	518
	令和3年度	35	36	34	36	38	38	37	35	36	39	41	42	447
要介護3	令和4年度	33	35	36	36	31	30	25	28	25	25	20	21	345
	令和3年度	31	28	29	29	30	29	30	31	32	30	28	33	360
要介護4	令和4年度	7	9	7	9	11	9	10	11	13	11	16	12	125
	令和3年度	4	4	4	7	9	8	9	9	8	7	8	7	84
要介護5	令和4年度	4	6	5	4	4	4	4	6	7	6	8	8	66
	令和3年度	6	6	6	5	4	4	4	5	5	5	5	5	60
居宅介護支援 介護給付費別 (年間総数)		令和4年度		介護度 1~2			911		介護度 3~5		536		合計	1,447
		令和3年度		介護度 1~2			700		介護度 3~5		504		合計	1,204

図5 ケアプラン作成実績

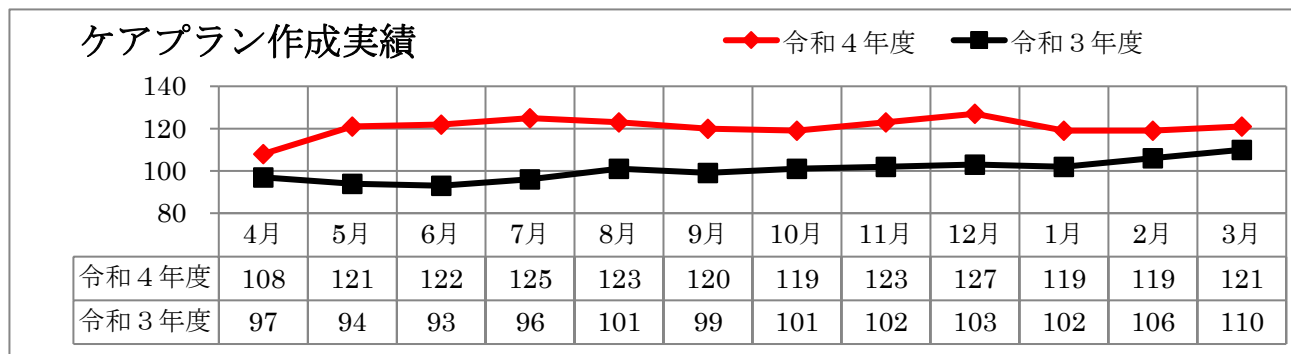
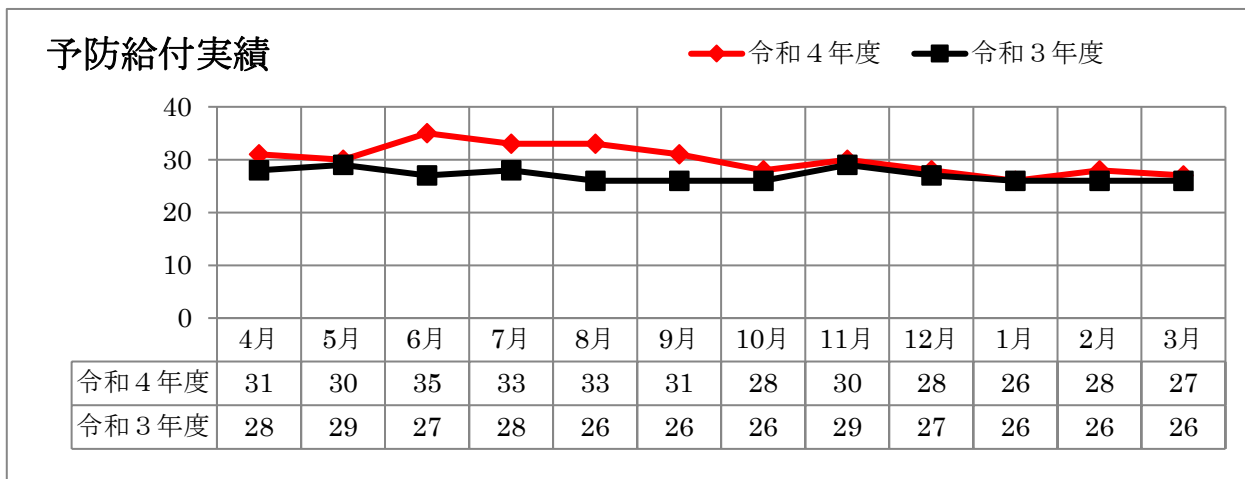


表18 予防給付(委託)実績

(単位:件)

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	令和4年度		31	30	35	33	33	31	28	30	28	26	28	27	360
	令和3年度		28	29	27	28	26	26	26	29	27	26	26	26	324

図6 予防給付実績



(2) 重点項目

新規利用者の獲得については、昨年度に引き続き、宇治市を中心とする隣接市の事業所から依頼があり、積極的に対応を行うことで1年間コンスタントな新規依頼件数（月平均6.0件）が獲得できた。

介護支援業務においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、医療機関へ入院後、退院カンファレンスの開催やご家族も含め面会ができないことは生じたが、これまで以上に連携を密に図り、ケアマネジャーからの積極的な情報収集が行えたことでスムーズな支援に繋がった。

事業所内の定例会議を通し、事例の振り返り・確認を行うことで、利用者の情報や支援内容を共有するように努めた。近隣の他居宅介護支援事業所の影響もあり、担当者数の急激な増加による全利用者の現状把握が、事業所内で共有しづらい状況も生じたため、ポイントを絞った効率的な情報共有を行うなど、サービス低下を招かず質の高いケアマネジメントが実践できるよう継続的に取り組み、事業所全体で支援を行う体制を充実させることができた。

また、課題として外部研修へ積極的に参加し、2024年医療・介護・障がい福祉の同時改定における影響などの情報収集や事例検討など内容の充実を図り、地域・他職種との連携を深める取り組みを行っていく必要がある。

7 研修一覧

表 1 9 施設外研修一覧

実施主体	研修名
京都府	介護サービス事業者等集団指導、高齢・障害施設のための新型コロナウイルス感染症対策研修、換気から見た新型コロナ対策、民間社会福祉施設長研修会、キャラバン・メイト養成研修
京都府・京都労働局・職業安定所	企業内人権啓発推進員研修会
京都府老人福祉施設協議会	総会・施設長研修会、山城北ブロック施設長会・研修会、
京都府社会福祉協議会	京都府社会福祉法人経営者セミナー、社会福祉法人役員・施設長等運営管理職員研修、老人福祉施設看護職・介護職等研修（高齢者の終末期・看取り）、外国人介護職員向け 介護技術・日本語能力向上研修／フォローアップ研修、
京都府地域包括ケア推進機構	介護施設における看取りケア研修
京都府公安委員会	安全運転管理者等に対する講習
京都府外国人介護人材支援センター	外国人介護人材の受入れに係るセミナー
京都認知症総合センター	機能強化事業研修（認知症ケアを介護サービス事業者と考える）、
久御山町	町内介護支援専門員研修
久御山町社会福祉協議会	障がい福祉理解促進研修、災害ボランティアセンター運用研修会
久御山町消防本部	応急手当普及員再講習
中部産業連盟	介護BCP策定セミナー
全国社会福祉法人経営青年会	組織・人材マネジメント委員会セミナー、組織・運営マネジメント委員会セミナー、総務・DX推進委員会セミナー、事業運営マネジメントセミナー
京都府介護支援専門員会	介護支援専門員更新研修（課程Ⅱ）、介護支援専門員更新研修（実務未経験者）

京都府介護支援専門員会山城ブロック研修会	カスタマーハラスメント(ケアマネジャーが備えるべきこと)
大阪府介護支援専門員会	介護支援専門員更新研修(課程Ⅱ)
(株)PCM	技能実習養成講習(技能実習責任者)

表20 施設内全体研修一覧

実施日	内 容	講 師など	参加者数(名)
4月18日	認知症研修 ～ユマニチュード・優しさを伝える技術～	身体拘束廃止委員会/特養看護師	30
5月23日	感染症対策について	感染症対策委員会	24
6月27日	福祉職員接遇研修	特別養護老人ホーム神の園 施設長 齊藤裕三氏(外部)	23
7月25日	認知症研修 ～ケアニンショートフィルム～	法人研修企画委員会	22
9月16日	法令遵守研修会 ～個人情報保護～	メディカル・テン 代表 宮坂佳紀氏(外部)	5
9月26日	コロナウイルス感染症施設内クラスターを振り返る	特養感染症対策委員会	26
10月17日	スピーチロックについて	特養身体拘束廃止委員会	24
11月19日	メンタルヘルスについて ～心身を癒やすアロマセラピー～	アロマセラピー学会認定看護師/特養看護師	24
2月20日	KYT(危険予知トレーニング)	事故防止対策委員会/介護課長	27
3月	法令遵守研修会(書面開催)	研修企画委員会	全職員
その他	学研ナーシングサポート、介護サポートのeランニング形式	学研ナーシングサポート、介護サポート(研修企画委員会)	全職員

8 危機管理

【事故及び苦情の状況】

事故の未然防止対策として、「ヒヤリハット報告書」の様式を事業所間で統一し、これまで各事業所内で実施していた事故防止対策委員会を法人全体で共有し、見える化を図ることで発生状況などの把握やリスク回避の対策などを積極的に講じることができ、事故発生の抑制に効果があった。分類基準別では、中等度の割合が大きく全体の71.4%（15件／21件）を占めている。主な内容は、転倒・転落後の医療機関受診（骨折等外傷なし）によるものであり、重度の内容も転倒による骨折事故であったことから、転倒・転落事故が多く見守り機器の導入など体制の充実を図った。一方で、新型コロナウイルスの施設内クラスター発生時期には、感染拡大防止対策の業務でひっ迫した状況となり、ヒヤリハット事例の件数が少なくなるなど、職員の意識によって「気づき」の件数に大きく影響することを再認識できた。今後も要因分析を徹底し、取り組みの強化を図っていく。事故や要望及び苦情の発生状況については、下表のとおりである。

表2-1 事故の状況

単位（件）

事業所	致命的	重 度	中等度	軽 度	合 計	ヒヤリハット
特 養	0	4	10	0	14	328
短期入所	0	1	3	1	5	64
ケアハウス	0	0	0	0	0	3
通所介護	0	0	0	0	0	30
訪問介護	0	0	0	0	0	11
居宅介護支援	0	0	2	0	2	0
合 計	0	5	15	1	21	436

（参考）分類基準（利用者への影響レベル）

軽 度：事故により利用者に変化が生じ、一時的な観察が必要となった場合

中等度：事故のため、一時的な医療的対応（治療）が必要となった場合

重 度：事故のため、継続的な医療的対応（治療）が必要となった場合

致命的：事故が生命を脅かすことに繋がった場合（繋がると予測できる場合）

表 2 2 要望及び苦情の状況

単位 (件)

事業所	ケアの内容に関する苦情	個人の嗜好・選択に関する苦情	利用料に関する苦情	接遇に関する苦情	その他
法人	0	0	0	0	2
特養	3	0	0	1	0
短期入所	4	0	0	0	0
ケアハウス	0	0	0	0	0
通所介護	4	0	0	3	2
訪問介護	2	0	0	0	0
居宅介護支援	2	0	0	0	1

【防災対策】

防災対策については、消防総合避難訓練を7月と3月に実施し、地元自治会長にも参加していただき、「非常災害時に関する覚書」の内容を確認し合うなど引き続きの協力体制を確認する機会となった。避難訓練の内容は、下表のとおりである。また、町内地域の防災訓練は、コロナ禍であることから今年度も中止となった。

表 2 3 災害避難訓練の実施状況

実施日	内容	実施事業所	立会い及び指導
5月23日	消防災害避難訓練（夜間想定）	特養、ケアハウス	久御山町消防本部
7月29日	水害想定避難訓練	特養、デイサービス	久御山町
3月8日	消防災害避難訓練（夜間想定）	特養、ケアハウス	久御山町消防本部
3月22日	消防災害避難訓練（夜間想定）	ケアハウス単独	担当職員

【職員の健康管理】

定期健康診断（9月）、腰痛検診（9月～10月、2月～3月）、夜間従事者健康診断（2月）、採用時健康診断（随時）を実施。メンタルヘルスについては、毎月の安全衛生委員会や産業医のミニ講座などで相談窓口の周知や法人職員全体研修内でアロマセラピー体験などストレス解消やストレスとの上手な付き合い方などの研修を実施した。

また、職員意見箱の設置や定期職員面談を年2回実施し、働きやすい職場づくりや働き方改革の推進に取り組み、有給休暇消化率を定期的に確認するなど適正な労務管理に努めた。